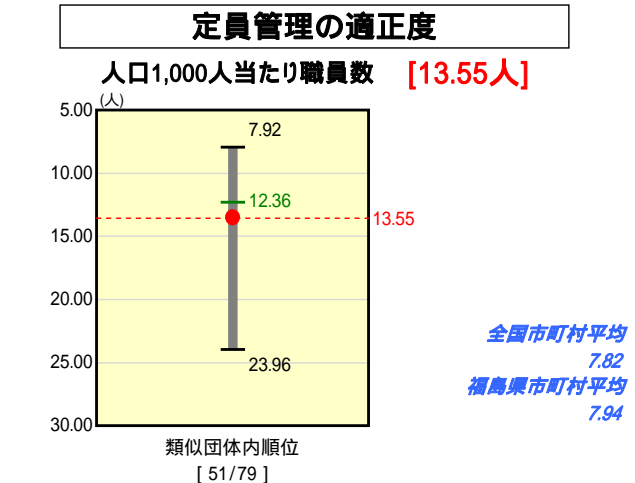
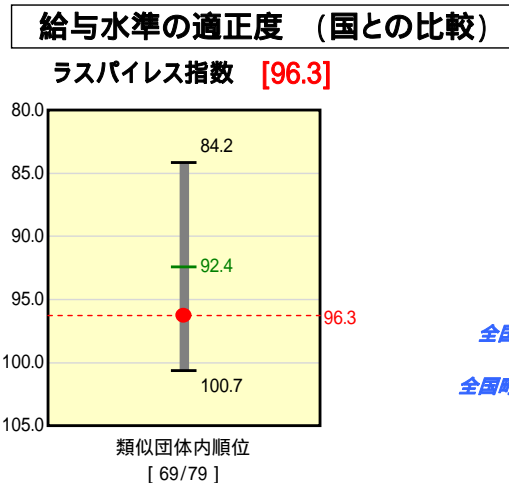
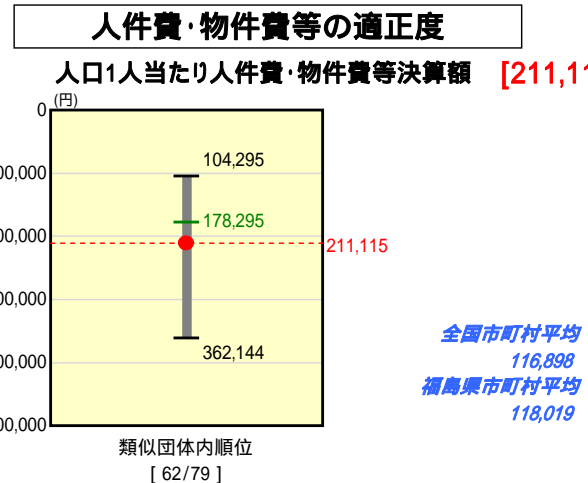
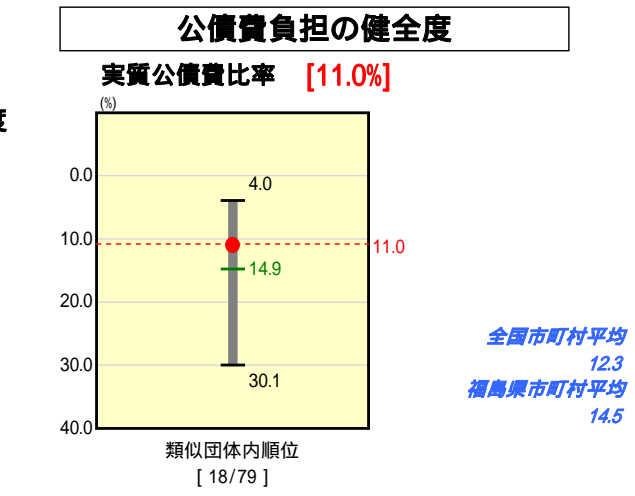
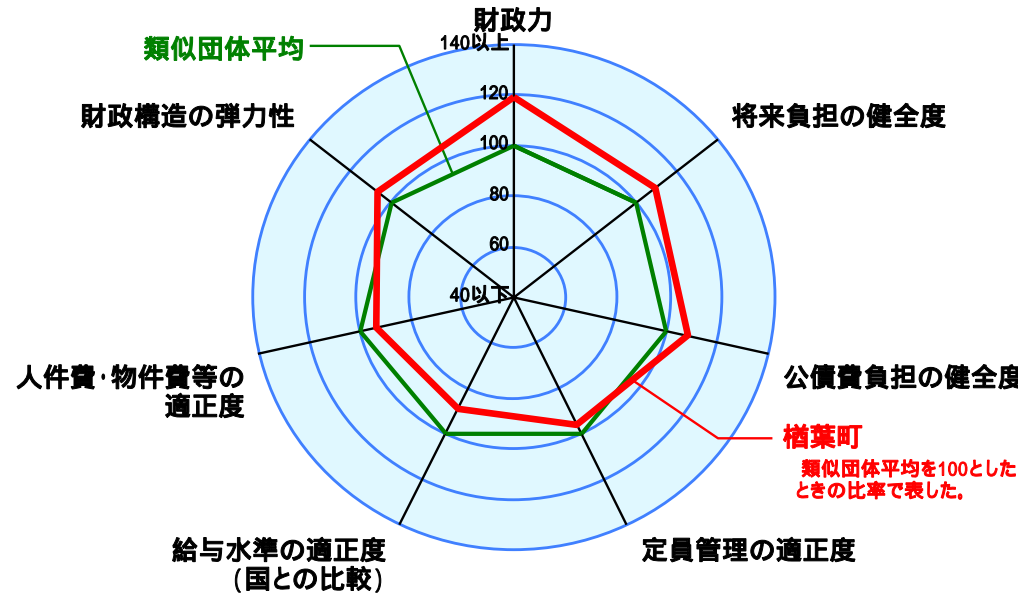
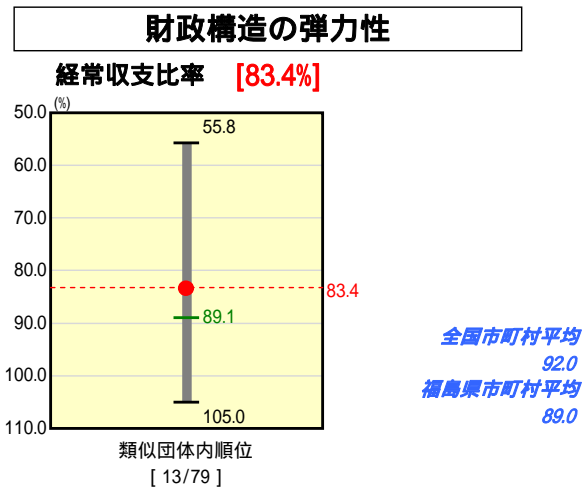
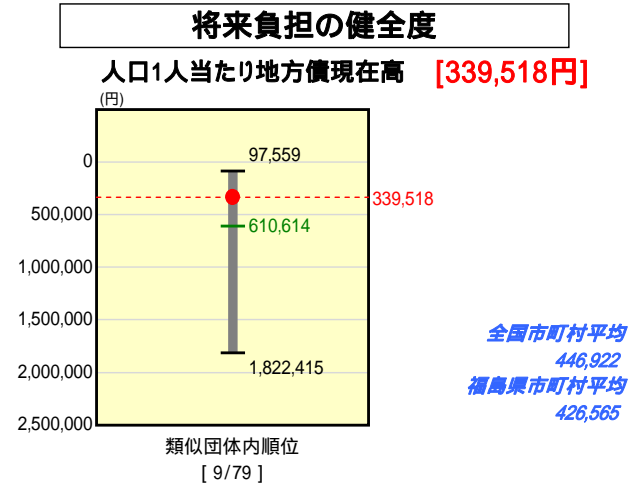
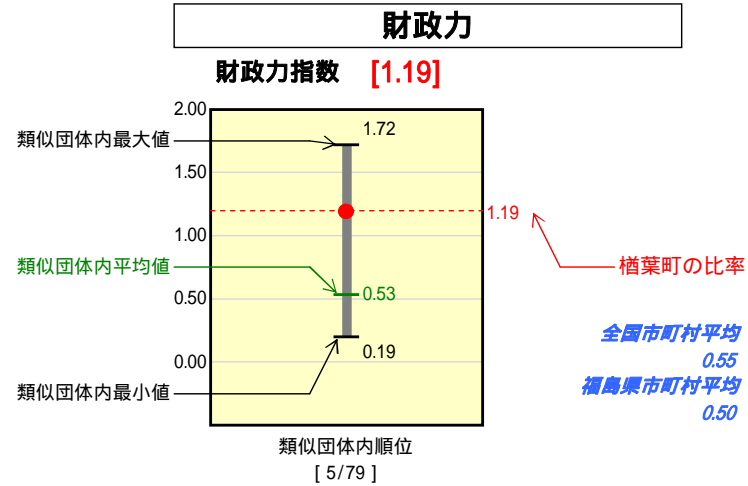


# 市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

## 福島県 楢葉町

人口	8,193人	(H20.3.31現在)
面積	103.45	km <sup>2</sup>
歳入総額	6,114,588	千円
歳出総額	5,884,339	千円
実質収支	223,363	千円



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。  
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。  
ラスバイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

### 分析欄

**財政力指数**  
大規模事業所(原子力発電所)の立地により類似団体平均を大きく上回る税収があることから、1.19となっているが、町税のうち大規模償却資産に係る固定資産税が毎年減収となっていることや、これまでに整備した公共施設等維持管理経費が財政を圧迫している状況にある。今後は、楢葉町集中改革プランに沿った町税の徴収率向上(毎年度95%以上)による歳入の確保と事務事業の見直しによる歳出削減に努める。

**経常収支比率**  
全国及び県内市町村平均を下回っているが、対前年度比率は6.0ポイント上昇した。これは下水道事業への繰出基準の算出根拠が変更となり経常的経費が大幅に増額したことが原因となっている。また、町税など経常一般財源が減少傾向にあるなか、現在の社会情勢から今後も扶助費など義務的経費の伸びが見込まれるため、行財政改革の計画的な取り組みにより義務的経費の抑制を図り、現在の水準を維持していくよう努める。

**ラスバイレス指数**  
給与体系の見直し(H19年度実施)が遅れ、類似団体平均を3.9ポイント上回り、全国町村平均をも3.1ポイント上回っている。また、全国的にも高い水準にあるため、地域の民間企業の平均給与の状況を踏まえ、給与の適正化に努めることにより、楢葉町集中改革プラン最終年度(平成21年度)までに全国町村平均の水準である93.2を目標として低下させる。

**実質公債費比率**  
町債の借入を計画的に削減していることから公債費が徐々に減少しつつあり、当年度は、4.0ポイント低下し11.0%となり、全国及び県内市町村平均を下回った。しかし、今後も町税など経常一般財源が減少すると考えられ、更に町勢振興計画に基づく教育施設の改修が予定されているため、事業計画の整理・縮小を図るなど、起債依存型の事業実施を見直し、実質公債費の上昇を抑制していく。

**人口1人当たり地方債現在高**  
類似団体平均を下回っている。今後、大規模投資事業(中学校改修事業)も予定されていることから新規地方債発行が見込まれるが、現水準の維持に努める。

**人口1,000人当たり職員数**  
本町特有の地理的条件による公共施設の点在が、類似団体と比較し1.19人上回っている大きな要因であると考えられる。現在、幼稚園・保育所の統合(4ヶ所から1箇所へ減)や退職者不補充など定員の見直し(5年間で6人削減)を実施しており、より適正な定員管理を行い、簡素で効率的な行財政運営に努める。

**人口1人当たり人件費・物件費等決算額**  
本町特有の地理的条件による公共施設の点在(幼稚園・保育所各2箇所)が、類似団体と比較し施設維持管理に係る人件費及び物件費が平均を上回っている要因となっている。今後は、施設の統合による経費の削減や、施設の維持補修費の平準化を図りコストの低減を図る。